

小笠原先生の奈良・古代史講座のご案内

主 催 奈良歴史遺産市民ネットワーク

事務局 〒630-8306 奈良市紀寺町883-4

TEL・fax 0742-23-3934 小宮みち江

講 師 小笠原好彦氏 滋賀大学名誉教授・文化財保存全国協議会代表委員

講座会場 奈良県教育会館 **開講13時30分(開場13時)** (奈良県文化会館西隣 近鉄奈良駅より徒歩5分)

参加資料代 500円

8月は休講とさせていただきます



9月12日(火) 《第8次遣唐使の帰朝と道慈・秦朝元》

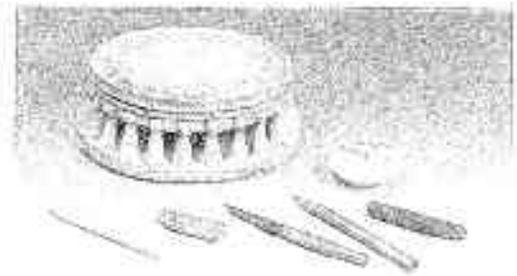
中国、朝鮮三国に遅れた日本の朝廷は、飛鳥時代・奈良時代は遣隋使・遣唐使を派遣し、隋・唐の優れた文化・文明を導入しました。その初期に、重要な役割を果たした人に、道慈と秦朝元がいます。この二人の活動を通じて、遣唐使の役割の一面を考えてみます。

10月10日(火) 《古代の官司と印の役割》

奈良時代には、唐と同様に、日本の官衙(役所)も公文書には印を押すようになりました。『正倉院文書』には、戸籍など、印を押した文書が残っています。この印には大きさの決まりがありました。また印をおすようになった経過と、どのような時に印を押したのか、また印を押す目的は何だったのか、現代の印鑑を押す書類と比較しながら、考えてみます。

11月14日(火) 《古代の^{ずしょりょう}図書寮とその役割》

古代に国家として、行政に必要とした重要な図書、経典を保管し、書写したのが図書寮です。図書寮は、いずれは国家が歴史書を編纂することを想定し、その資料を収集し保管するとともに、各省が運営する上で必要とした紙・筆・墨を配布することも職掌として担っていました。この図書寮が果たした役割を考えてみます。



役所より現 水碓 刑列左より水碓 碓石、刀子、筆、墨 (奈良県文化財研究所蔵)

※コロナの感染状況により休講とする場合があります。ご了承ください。

※引き続き 新型コロナの感染予防にご協力をお願いします。

☆☆☆ 事前の申し込みは要りません。どなたでも参加できます ☆☆☆